資源環境経済学特別演習 II 議事録（１２月）

２０１１ 年 度 第 １ １ 回

報告題名　スーパーにおける青果物の仕入れ活動と新展開―上海を事例に―	
報告者　威　簾 （**所属分野**）国際開発学分野	**日時　１２月　２２日　午後３時～** **場所　第二講義室**
座長　宮里かつ代	**議事録担当者　室井憲**

出席者

長谷部、安江、小山田、米澤、冬木、高篠、伊藤、石井、阿部、スチン、八木、水木、宮里、易思、威廉、王、北村、金、滝田、タンボウニ、中村、堀、林、泉井、金、黄、今井、渋谷、畠山、室井、ナスンムンク、徐、趙、劉、王偉、池畑、伊坂、伊藤、西田、門馬

報告要旨

中国の青果物流通市場において、流通効率が低い、農家販売困難収入低下、また食品安全問題頻発という背景で、2008 年から農業部が「農超対接」プロジェクトという産地直送活動を提唱した。そのモデルとしてはスーパーと産地の直接連携であります。

近年急速に発展するスーパーが「農超対接」活動の中、生産から流通、販売まで主要な役割を果たしております。

それで、スーパーが「農超対接」プロジェクトという産地直送活動の中で青果物流通コストを削減、食品安全の向上、農産物販売ルートを拡大と確保という目的を解決しているかどうかについて検討したい。

そのために、2011 年 9 月から 11 月まで中国上海におけるスーパーに対しアンケートと聞き取り調査をしました。それで、スーパーの青果物仕入活動について整理し、その変化を検討する事で確認したいと思います。

質疑・応答

八木：前回の発表では複数のスーパーを事例に挙げていたが、今回は一つだけか。また、仕入先で 2000 年のデータがあるが、これは全国の値段か地域の値段か。2010 年のデータはスーパーA のものか。

威廉：2000 年のものは、既存研究で 1999 年の上海での調査のもの。2010 年のものは他の人のデータである。

八木：収入の増加、安全性の追求を求めるようになった。しかし、卸売市場ではリスク対応できていない。だから、参入コストは高いと思うが、信頼関係により流通経路が農超対接にシフトしてきたのが中国の特徴だと思う。

威廉：農超対接は 2008 年から始められたが、参入スーパーには政府から資金援助がある。卸売市場の問題は安全性が低いなど問題が前からあった。資金援助などの影響でだんだん農超対接になってきた。

宮里：今回は、スーパーの視点からだったが、背景にあるのは農業所得自体高まっていないことである。所得格差をなくすため、安全性を確保するために農超対接が行われていると思う。農家の所得はどうなったのか、農業所得は高まっているのか。

威廉：農超対接によって農家の所得は増えていると思う。スーパーが連携する農家が増えれば、農家の販売ルートが増える。間接的な影響を与えていると思う。

劉：生鮮食品加工配送センターと卸売市場の違いは何。

威廉：スーパーが全部農超対接で仕入れているわけでなくて、卸売市場から補充している。配送センターは加工・処理してスーパーへ出荷している。

劉：スーパーは消費者に安心・安全の食品を提供できるとあるが、年 1･2 回の検査で安全を確かめることは出来るのか。

威廉：市場に出る前に検査をします。1･2 回というのは生産段階でということです。

長谷部：マーケット・チャネルは A だけ。

威廉：はい

安江：産地直送、安心・安全を考えていったら流通コストは高くなる。本当にコスト・ベネフィットにおいてはメリットあるの。もう少し、組み込んで考えた方がいい。

安江：これは企業の研究だよね。農家の研究ではないよね。

威廉：はい。